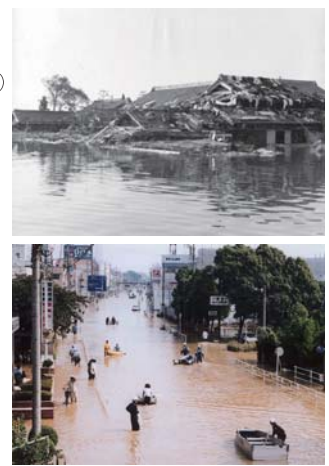


愛知県の過去の主な風水害



伊勢湾台風の
浸水被害(上)
東海豪雨の浸
水被害(下)



伊勢湾台風

昭和34年9月21日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第15号は、発生後2日足らずで猛烈な台風が発達し、26日に紀伊半島へ上陸し、東海地方を中心に甚大な被害を及ぼしました。

愛知県では、名古屋市南部や海部・知多地域などで激しい暴風雨の下、高潮により短時間のうちに大規模な浸水が起こり、死者・行方不明者約3,300名に達する大災害となりました。

東海豪雨

平成12年9月11～12日、愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害です。2日間の積算降水量は多いところで600ミリ前後に上り、名古屋市周辺で多数の浸水被害が生じたほか、広い範囲で河道護岸の損壊、がけ崩れ、土石流などによる災害が発生し、交通網が寸断され、伊勢湾台風以来の大被害をもたらしました。

わが家でできる風水害対策

風水害による被害を最小限に食い止めるには、事前の備えが大切です。ここでは、家庭でできる対策をまとめました。

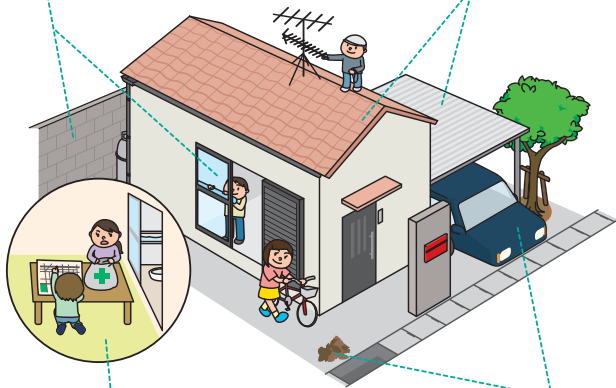
台風や集中豪雨がくる前に

外壁・ベランダ・窓などの備え

- ・壁に亀裂や腐りがないか点検しよう
- ・雨戸にがたつきはないか点検しよう
- ・プロパンガスのボンベはしっかり固定されているか点検しよう
- ・雨どいを掃除し、排水をスムーズにしておこう
- ・ベランダの植木鉢など、風で飛ばされそうなものを室内へ入れよう
- ・窓が割れた時のガラスの飛散を防ぐため、テープを貼ったり、万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておこう

屋根の備え

- ・瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか点検しよう
- ・TVアンテナに緩みやぐらつきがないか点検しよう
- ・車庫や物置などのトタン板が風圧で吹き飛ばされないか点検しよう



屋内での備え

- ・非常持ち出し品の準備をしておこう
- ・停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオの準備をしておこう
- ・断水に備えて飲料水を確保しておこう
- ・浴槽に水を張るなどして、生活用水を確保しておこう
- ・浸水などのおそれのある場所では、食料品・衣類・寝具などを高い場所へ移動しておこう
- ・いざという時に避難する場所を確認しておこう

塀や庭などの備え

- ・ブロック塀にひび割れや破損がないか点検しよう
- ・側溝や排水溝のゴミや木の葉などを取り除き、水はけをよくしておこう
- ・庭木に支柱を立てたりして補強しておこう
- ・庭の物干し竿や自転車など、風で飛ばされそうなものを室内へ入れよう
- ・住んでいる土地の特徴を把握しておこう(くぼ地か、危険ながけはないかなど)
- ・崩れそうながけがあれば、ビニールシートなどで覆い、雨の浸透を防止しておこう

台風などが近づいた時の心得

- ・テレビやラジオなどから最新の情報を入手し、台風情報を注意深く聞こう
- ・雨で増水した川やがけの下など、危険な箇所へ近づかないようにしましょう
- ・病人、乳幼児、高齢者、障害者などの人々を早めに安全な場所へ移動させよう
- ・造成地、扇状地、急傾斜地、海岸地帯、河川敷などの危険な土地では早めの避難を心がけよう



避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)

災害時には市区町村長が「避難勧告」等の避難情報を発令する場合があります。避難情報の入手方法(市町村ウェブサイト、防災無線等)について確認しましょう。
なお、避難情報には、以下のものがあります。

避難準備・高齢者等避難開始

- ・避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合に発令されます。
- ・避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。

避難勧告

- ・災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合に発令されます。
- ・速やかに避難場所へ避難しましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

避難指示(緊急)

- ・災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合に発令されます。
- ・まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

※必ずしもこの順番で発令されるとは限りませんのでご注意ください。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。



出典 内閣府 防災情報のページ
(<http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/hinanjumbijoho/index.html>)

避難の心得

1 避難する時はひもで締められる運動靴で、長靴は中に水が入り、かえって動きにくくなります。



2 はぐれないよう、互いの身体をロープで結んで避難しましょう。子どもからは絶対に目を離さないように。

3 歩ける深さは、男性で70cm、女性で50cmが限界です。また流速がある場合、足のくるぶし以上の水量があると、流されるおそれがあり危険です。無理せず、高所で救助を待ちましょう。



4 互いの手をつなぐのは、行動の自由を奪うことにもつながります。非常持ち出し品などはできるだけ背負うようにして、手を自由におきます。

5 水面下には、ふたの脱落したマンホール、側溝、段差など危険が多いので、長い棒を杖がわりして、安全を確保しながら歩きます。



6 高齢者や身体の不自由な人は背負います。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスなどを利用して、安全を確保します。